

# 読賣新聞

2018年(平成30年)

3月1日木曜日

政治 4 国際 6 7 解説 13  
 経済 8 9 文化 26  
 家庭 14 17 教育 18  
 スポーツ 23 24  
 気流 10 小説 6  
 商況 碁・将棋 28 29

(第3種郵便物認可)

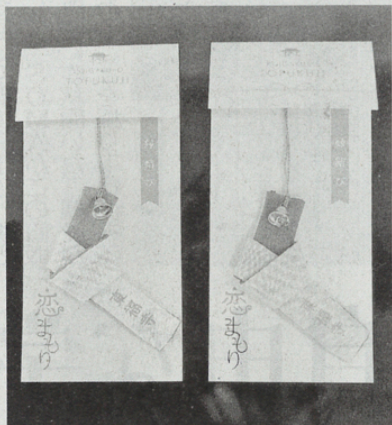
国分寺市西恋ヶ窪の東福寺が、地名の「恋」にちなんで、縁結びのお守りの授与を始めた。鳴らすと御利益があるとする「恋の鐘」も境内に設置した。鎌倉時代初期に開山されたと伝わり、地元では充実した葬儀施設で知られる東福寺。「縁結びのパワースポット」として親しまれているための思い切ったイメージチェンジだ。

## 国分寺・西恋ヶ窪の東福寺

## 御利益よ

プロデュースしたのは、地元ゆゆるキャラ「にしこくん」をデザインしたポップアート作家・西尾有未さん(29)。市内の別の寺のお守りも手がけており、これを知った本田真章住職(53)が「檀家が減っていく時代。何か新しい取り組みをしなければ」と依頼した。

西尾さんがデザインした「恋まもり」



# 恋

## 若者たちよ

## 縁結びお守り授与♡「恋の鐘」設置

は源平の争乱期の武将と遊女の悲恋の伝説も残っていることから、恋にちなんだ仕掛けを施すことに。寺に授与品はなかったため、麻のような質感の布を結んだピンクと水色の「恋まもり」2種類をデザインした。

恋まもりのほかにも、レーザーで彫った木製の所願成就のお守りと、寺の本尊「金剛界大日如来坐像」を描いたカードサイズのお守りも作成。800〜1000円で授与している。寺に足を運んでもらう

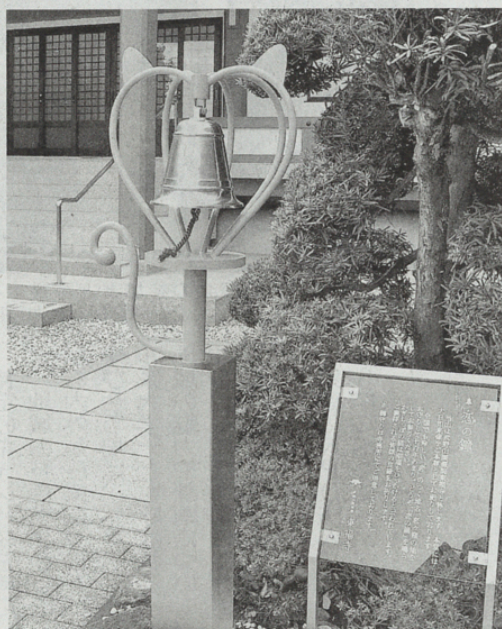
ため設置した「恋の鐘」は、かぎのような形が幸運をつかむシンボルになっている猫の「かき尻尾」をイメージ。ソーシヤル・ネットワーキング・サーピス(SNS)で話題になることを狙い、白い色の本堂との対比が際立つよう、色は鮮やかなシヨッキングピンクにした。

寺はお守りの授与を始めた2月11日、にしこくんも登場するイベントを開催。SNSで告知したこともあり、若い男女が50人ほど訪れてお守りを求めていったという。本田さんは「普段は見えないような人たちが訪れて

くれた」と喜ぶ。

一方、お守りのデザインにもした本尊は、享保10年(1725年)に建立されて以来、原則非公開。実物は金箔が貼ってあるが、西尾さんは、恋の鐘と同様にシヨッキングピンクや黄色を用いて印象的に仕上げた。本田さんも気に入って、開眼供養を済ませて本堂の正面に安置されている。

西尾さんは「新しい試みを提案することで若い人たちに訪れてもらい、伝統的な寺の魅力を知ってもらう手助けができればうれしい」としている。



境内に設置された「恋の鐘」。良縁祈願に鳴らす人が増えてきたという。本尊のポップアートを描いた西尾さん(左)と住職の本田さん(いずれも国分寺市の東福寺で)

